

1 学校教育目標

豊かな心・感性・知性・体力を身に付け、世界に羽ばたく青井の子どもの育成

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力の定着を図る学校 ・ 様々な体験を通して、豊かな心とあきらめないでやり通す強い心と、健康な体を育てる学校 ・ 保・幼・小・中の連携をより一層推進することで教育活動の充実を図る学校 ・ 地域社会に開かれた学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけ、確かな学力を身に付けた児童 ・ 失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦し、自ら進んで心と体を鍛えようとする児童 ・ 社会のルールを理解し善悪の判断力・規範意識を身につけ、自信をもって中学校を目指す児童 ・ 相手を思いやることの出来る豊かな心をもった児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務に厳正であり、人権感覚を常にもち、自らの力を伸ばし続けられる教師 ・ 児童・教職員・保護者・地域の方々とコミュニケーションが良好に図ることができ、相手の思いや考えを理解し、相手の立場に立って考えることができる教師 ・ 主体的かつ的確な判断ができ、限られた時間を活用して職務の効率化を図り、組織的に課題解決に取り組むことができる教師 ・ 教師としての基礎基本（東京都教育委員会が示す「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」及び、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」「デジタルや情報・教育データの利活用」等）、人として社会人としてのマナーを身につけた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

①学校について

「基礎基本の定着」「若手教員の育成」「自尊感情・自己肯定感の育成」「健康教育の推進」を常に考慮しながら、『幼稚園から中学校まで見通した教育活動』を展開した。地域・家庭との協力を得て教育活動の成果を上げていると考える。

②児童について

明るく素直であり、心優しい児童が多い。基本的な生活習慣、学習習慣・家庭学習の定着に課題がある児童や特別に配慮や支援が必要な児童がどの学年にもおり、個に応じた丁寧な指導が求められる。課外活動の金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部等の活動にも積極的に取り組んでいる。

③教師について

教職員は子どもの教育に熱心で、職務に取り組んでいる。また、授業の中に積極的にデジタル教育学習基盤の活用を取り入れ授業を展開している教員も増え、すべての学級で、デジタル教育学習基盤を活用した授業を展開している。しかし、経験が少ない教員が多いため、教科指導専門員の指導を受け、経験のある教師が若い教師を育て、教育活動の工夫・授業改善に努めている。

④保護者・地域について

地域の学校という意識が高く、学校を愛し支援して下さる方が多い。保護者・地域の方々は、学校教育に理解を示し、とても協力的であり、毎日児童の登校時間、下校時間に横断歩道に立って見守ってくださったり、パトロールをしてくださったりしている。

(2) 前年度の成果と課題

- ①「課題解決型授業展開の工夫」をテーマにして授業力の向上に取り組んだ。小中連携事業（中学校1校、小学校2校）の中で、授業研究を進め、教員の授業力向上を目指した。学力の向上を図るため、児童の学習内容の定着状況を定期的に診断し、指導に生かしていく。
- ②基礎基本の定着を目指し、放課後の補習教室、3月に実施したプレテストの結果分析を行い、学年ごとに具体的な対策を立て学習活動を行った。そして、年度初めに次年度の学年に引き継いだ。特に、全職員が指導にあたる放課後補習教室「あおいゆうやけ教室」やつまずきの解消のため「そだち指導」により、個に応じた指導を充実させている。今後も継続して取り組む。
- ③あいさつ運動、地域貢献の取組等に参加し、今年度実施し地域との交流を進めることができた。また、地域のお祭りやPTA主催の子供フェスティバルなどの催しにも、学校として協力し、児童や教職員の参加を促すことができた。
- ④行事の充実、部活動（金管バンド部・サッカー部・ミニバスケット部）の指導により、感動体験や達成感を感じる機会を増やし、自尊感情を高める活動を工夫した。継続して取り組む。
- ⑤A Iドリルの活用を推進し、授業の中や家庭学習での取り組み方を推進している

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
1	学力向上アクションプラン	○	◎			
2	いのちを大切にす教育の推進	◎	◎			
3	健やかな体の育成	◎	◎			

5 令和8年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎・基本の定着	90%		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					

新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	足立スタンダード(虎の巻)	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、学校長、学力向上主任から本年度の取組について説明。 ・前期、後期ごとに、学年での取り組みについて(計画⇒実施⇒反省⇒改善) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回検証授業(授業観察) ・学校評価アンケート(児童:授業がようわかる。保護者:教員は、工夫して授業を行っている)教員:管理職評価 	児童:肯定的評価80%以上 保護者:肯定的評価70%以上 教員:管理職評価B以上80%以上	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
2 継続	昼学習	全児童 国語 算数	毎週 火、木 給食後 15分間	【指導者体制】 担任・専科 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 プリント教材、AIドリル、漢字ドリル等	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。			
3 継続	個に応じた指導の充実	全学年 (学力調査の結果から抽出した児童)	毎週木 放課後 45分	【指導者体制】 全教員・学習支援員・ 【取り組みのねらい・目的】 勉強ができる喜びを味わわせるために実施。つまづきをさかのぼり、基礎となる問題や演習問題を中心に少人数指導。苦手なところを克服させる。 【使用教材】 プリント教材(次へのステップ、東京ベーシックドリル等)AIドリル	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童70%を目指す。			
4 継続	学力調査後と確認テスト後の学年面談	全教員	確認テスト後 7月 12月 3月	取り組みのねらい・目的】 ①確認テスト後に、学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。 ②児童の変容を記録する	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童90%を目指す。			

5 継続	サマースクール	全学年 (学力調査の結果から抽出した児童)	夏休み期間中の各学年 10日間	【指導者体制】 全教員、中学生ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 教職員を全学年に分担し、少人数指導のもと進める。過去学年にさかのぼったつまずきの克服や、現学年の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 【使用教材】 プリント教材（次へのステップ、東京ベーシックドリル 等） AI ドリル	定着度確認テスト (7月、12月、3月実施)	3月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 70%を目指す。
6 継続	組織的な取組による教師力の向上	全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 ①小中連携を推進し中学校教員の専門性や指導技術を小学校にも取り入れ、小学校教員の指導力の向上を図る。 ②若手教員対象に教科指導専門員による指導を受け、足立スタンダードに基づいた課題解決型授業について学ぶ。 ③校内での授業をお互いに参観する機会を増やす。	児童アンケート (12月)	児童アンケート「授業がわかりやすい」の項目で肯定的評価 90%を目指す。
6 継続	家庭学習の充実 【放課後自習室「学 viva」(まなびば)】	第5・6学年児童	通年 火、金	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習など、学習習慣が身に付いていない児童に対して、自主的に学習に取り組み時間と空間を提供する。	学年に応じた学習時間	児童アンケート「家庭学習の目標時間達成」を前年度以上とする。
7 継続	ICT を活用した授業の取組	全児童 全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 《児童》 ・タブレットを活用した学習活動を行う。 ・AI ドリルを使い、基礎基本の学力を身に付ける。また、学習のつまずきを克服する。 《教員》 ・ICT を活用し授業改善を行い、授業力向上をめざす。 ・AI ドリルを効果的に活用し、学力向上を図る。	児童：学習アンケート、 AI ドリル活用報告 教員：管理職授業観察 自己評価	児童：タブレットを活用して学習することができた。 (KPI)、AIドリル活用報告MAU90%以上 肯定的評価 80%以上 教員：管理職評価B以上 80% 自己評価 B 以上 80%

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－2		いのちを大切にする教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いのちを大切にする教育の推進		児童アンケートで、「友達を大切にしている」の項目で児童の割合 90%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己有用感の育成	①保護者アンケートで「楽しく学校生活を送っている」の項目肯定的評価が 90%以上 ②児童アンケートで「学校に行くのは楽しいか」と回答する児童の割合、90%以上	①毎月 25 日を「青井小いのちの日」として、児童朝会の校長講話とすべての学級の道徳の時間での「生命尊重」の授業を実施する。 ②金管バンド部・サッカー部・ミニバスケットボール部の活動を充実させ、感動体験や達成感を味わう機会を設ける。 ③「あいさつ運動」の推進	自己評価の際に記入		
読書活動の充実	①児童アンケートによる「読書量の増えた児童」の割合 95%以上 ②お話し会、読み聞かせ等の機会を年間各学年 2 回以上 ③読書の時間の確保 ④読書週間の充実	①朝読書等の読書タイム（15 分）を週 2 回、年間 70 回以上実施する。 ②読書ボランティア・図書館支援員等と連携し、読み聞かせ、ブックトークを実施する。（年 2 回）、「大お話し会」の実施（年 1 回） ③図書室を開放する時間を増やし、読書機会を多く設定する。			
特別支援教育の推進	①特別支援学級との交流及び協同学習を年間通して実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を年間 1 回以上実施する。 ③全学級において、障がい者理解教育のための授業を年 1 回以上実施	①学校行事、縦割り班活動だけでなく、教科・領域においても交流及び協同学習を実施する。 ②地域の障がい者施設との交流を低学年で実施する。障がい者理解と共生社会の担い手としての意識を芽生えさせる。 ③外部講師等による講演会を年 1 回以上実施する。			

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成		児童アンケートで健康への関心が高まったと回答する児童が90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の定着	①1日30分、外遊びか運動をする児童が90%以上 ②体力調査で区の平均を上回る項目数を7割以上	①持久走大会、長縄チャレンジ、なわとび集会の実施 ②体育科の授業改善による運動の日常化の推進 ③投力向上のための指導方法の開発と実施	自己評価の際に記入		
健康教育の推進	①う歯の受診率90%以上 ②生活実態調査で、早寝早起きの習慣がついた児童80%以上 ③2月の生活実態調査で、朝食の摂取率を100%	①歯科検診を年間2回実施する。個人面談の際に未治療者に治療勧告をする。 ②養護教諭による、保健指導を年間15回実施する。 ③生活実態調査を年3回実施し、規則正しい生活を実践するための関心と意欲を高める。			
食育の推進	①食に関する指導を年間15回以上実施する。 ②残菜率を一か月平均2%以下にする。	①誕生日給食の際に、栄養指導を行う。(年12回)食に関する指導を3回以上実施する。 ②「もりもりウィーク」等で、完食した学級を表彰し、児童の食への関心と意欲を高める。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）